ラビットチャレンジ課題　作成者:内山 貴雄

●深層学習前編 勾配降下法実装演習レポート

　「1\_3\_stochastic\_gradient\_descent.ipynb」における「確率的勾配降下法」内にて、上記式は下記コードにて示されている。

　下記コード内network[key]は更新後の重みWを示し、leaning\_rateは学習率、grad[key]は誤差関数を重みWにて微分した式に既知の各変数を代入し算出された値を示す。またその値はbackwrad()関数にて求められる。





